長倉商店塾　集中講座・特別講座 2025　ご案内

【集中講座・特別講座　共通事項】

◎会場　　北海道釧路市新富町 16-12　（川北交番より共栄小に向かい徒歩 1 分）

◎受講料　各期 16,000 円
※高校生無料
※当日現金でのお支払いのみとさせていただきます。

◎時間割　1 日目　①13：00～14：10　②14：40～15：50
2 日目　③10：00～11：10　④12：10～13：20　⑤13：50～15：00
※お昼休み　11：10～12：10

◎申込方法　　5/21㈬より、長倉洋海ホームページ内申込フォームに入力、または
下記のお問い合わせ先にお電話にてお申込みください。
・長倉洋海ホームページ　https://www.h-nagakura.net/

◎お問い合わせ先　　長倉商店塾を応援する会 事務局
MAIL：nagakura.store@gmail.com
TEL:080-4504-1119（17 時以降）

■ 商店塾ギャラリー写真展のご案内
講座開催日には、隣接する商店塾ギャラリーにて、長倉洋海写真展を同時開催いたします。
ぜひご観覧ください。
展示内容については、決定次第ご案内いたします。
※入場無料（受講者以外の方も、どなたでもご覧いただけます）
※講座開催時のみの展示です。ご注意ください。

■長倉洋海による作品講評について
受講者で希望する方は、自分で撮影した写真作品を長倉洋海に見てもらい、講評をもらうことができます。講評を希望される方は、申込の際に「講評希望」とお知らせください。
詳細は別途メールでご案内いたします。
※講評は、各期講座終了後（2 日目の⑤講義終了後）となります。

（集中講座・特別講座　共通事項）

集中講座 2025『愛する者のために、信じるもののために』

混沌を極める現代社会。ひと昔前は「国際化」、そして現代は、「デジタル化と AI」が時代の寵児としてもてはやされている。しかし、それは金儲けのための操作に踊らされているだけの話ではないだろうか。AI が米を作り、魚を獲れるのか。古来、人はそれがなくても豊かに楽しく生きてきた。

スピードや便利さが「良し」とされる現代だが、そこから最も遠いところにこそ、人が生きていく上で一番大切なものがあるのではないだろうか。それは人や故郷への愛であり、損得ではない崇高なものを求める精神だと私は思う。

この講座が私たちそれぞれの道を照らし出す一助になればと念じながら、2025年の集中講座を開講します。奮ってご参加ください。夏の釧路でお待ちしております。

長倉洋海

◎日程

・第 1 期　7/19、20（土日）　『心に刻まれたもの』

・第 2 期　8/30、31（土日）　『風景の向こうに在るもの』

◎定員　　各期 15 名

◎ 講座内容

■第 1 期『心に刻まれたもの』　7/19、20（土日）

①「マスードは何を求めていたのか―その信仰と現代社会」

マスードを支えたのはイスラムへの信仰、いや、イスラムを超えた「大いなるもの」への畏敬の念。人が人と共に生きていくための教えを彼は心に持っていた。それは現代の指導者に一番欠けているものではないか。彼の生き方や話したことを通して、立ち顕れてくるものに迫ります。

②「私たちは木から生まれた―狩人ゼッが話したクリカチ族の話」

昨年、20年ぶりに訪れたブラジル先住民クリカチ族の村で再会した狩人のゼッ。自由に森を歩き各地を旅した話や、「人は死ぬと木に生まれ変わるよ」と伝承を語りながら、「生まれ変わったらハチドリになりたいな」とも話した。昨年暮れに亡くなった彼の半生と彼らの伝承をお話しします。

③「漁師チモジと―カピンガマランギ環礁での生活から」

1971年、大学 2 年生の私がカピンガマランギに住み込み生活を始めたとき、漁の師匠となったのが漁師のチモジだった。腕にはカタカナで「チモジ」と彫られていた。島の人と「島を信託統治した日本」との関わり、彼らが今も日本を愛する理由を探ります。

④「難民の少女ヘスースの今―エルサルバドル、24年ぶりの再会」
内戦下の中米エルサルバドルで出会った3歳の難民の少女ヘスース。以来、19年に渡り、彼女を撮影してきた。彼女は現在、3人の子と愛する夫フランシスコと幸せに暮らしている。「ナガクラさんに会うのを楽しみにしている」と話す彼女の元を24年ぶりに訪ねた、ヘスースたちの最新報告です。

⑤「出会った人たちの、心に残る言葉を巡る」
アパルトヘイト（人種隔離政策）が長く続いた南アフリカの鉱山労働者ソロモンと妻のディダ。コソボ内戦の瓦礫の中で出会ったザビット、その妻のサニエと子どもたち。シベリアでトナカイを追うネネツ遊牧民、アマゾン先住民ヤノマミ族のシャーマン・ダビ。世界で出会った言葉から「光り輝くもの」を見つけます。

■第２期『風景の向こうに在るもの』　8/30、31（土日）
①「カメラを道連れに」
私が使った歴代のカメラ、ニコン、ライカ、キャノンなどの機材を見せながら、レバノン、シベリア、ミクロネシア、アフガニスタンでの撮影エピソードを語ります。

②「故郷・釧路」
日本の中心から離れた辺境の地だとずっと思ってきた。しかし、世界各地で故郷を愛する人々に出会うことで何かが変わった。故郷の写真を見せ私の原風景について語りながら、皆さんと「故郷」に思いを馳せていきます。

③「沖縄を旅する」
沖縄の歴史と現代に触れることで何が見えてくるのか。三度の旅で見えてきたものを、話します。

④「水俣から浮かび上がる日本」
日本の公害運動の原点である水俣。利潤を求める人間と、海の恵みで生きる民との乖離から生まれた「悲劇」を通して、この地の人の在りようを書き残した石牟礼道子さん。現代日本を江戸時代から見つめ直し、いまを生きることの意義を書き伝えた渡辺京二さん。2 人の著作を手に水俣を巡った旅の報告です。

⑤「叡智を辿る旅」
北米インディアンの長老、アマゾンの森の哲人アユトン・クレナック、そしてアフガニスタン抵抗運動の指導者マスード。奈落に沈みつつある世界を救う方法と新たな道はあるのか。
「時を超えて蘇り、光を放ち続けるもの」を探る講座にしたいと思います。

（集中講座）

長倉商店塾 特別講座 2025『写真集をつくる～写真集づくりの実際』

写真集を作ろうとすることで、「写真の深さ」が見える。同時に、一気に写真に近づくことができる。自分の写真から新しい発見をしよう。それを写真集という物語にすることで、写真へのアプローチの新しい形が見えてくる。

◎日程
・第１回　8/2、3（土日）
・第２回　9/20、21（土日）
※どちらの回も同じ内容です。

◎定員　　各期５名
１名づつ作品講評と写真集づくりを行なうため、少人数となります。

◎ 講座内容
写真集を作成する段階を、長倉洋海が自身の著作作成時の実物見本を見せながら説明し、参加者は長倉にアドバイスをもらいながら、自分なりの写真集のイメージを作ってみる講座。
他の参加者たちの「現実の世界」に対する様々な捉え方にも触れることで、「目の前の風景」や「そこに在るもの」への新しい視点が生まれるのではないだろうか。光と陰、まばゆさときらめき、そして、「存ること」の奥深さを、より具体的に「捉える」方法を模索する。
※参加者には課題として 10 枚程度の写真作品を持参してもらい、ワークショップ形式で実際に写真を並べる等を行ないます。準備等の詳細については、お申込み後にご連絡いたします。

① 写真展の実際
② 写真集作成の実際
③ 写真集づくりを考える　（持参した作品を使った実践）
④ 写真集づくりを考える　（実際の指導→発表）
⑤ 写真集づくりを考える　（発表および講評、質疑応答）

※特別講座は、課題で提出いただいた写真作品を講評します。
課題以外で別途講評希望の方は、申込時にお知らせください。
課題以外の講評は、2 日目の最終講義後に行ないます。

（特別講座）